

## 令和4年度（旧）京都府総合計画の実施状況

### 5つのきょうとチャレンジの取組状況

※「総合計画に掲げた具体方策」欄は、5つのチャレンジに掲げる「主な重点・新規方策」を記載

※本計画は令和4（2022）年12月に1年前倒しで改定し、令和5年度から新たな計画が開始しているため、令和4（2022）年度が最終年度となる

## 「子育て環境日本一」きょうとチャレンジの取組状況

### 【総括】

2040年に全国平均並みの合計特殊出生率をめざし、行政、府民、地域、企業などあらゆる主体の総力を結集し、「子育て」の視点から社会を変革するため、「きょうと子育て環境日本一サミット」の開催をはじめ、「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」の実施、「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言」や「ワークチェンジ塾」開設等の取組を進めた。

### 【到達目標】

指標名称	単位	基準値 (2018年度)	目標数値 (2023年度)	参考年間 目 標 (2022年度)	実績数値 (達成率：%) (2022年度)
住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う人の割合	%	82.6 (2019年度)	90.0	90.0	80.6 (89.6)
子育てに喜びや楽しみを感じている親の割合	%	96.0 (2019年度)	96.0以上	96.0以上	93.7 (97.6)
子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言を行った企業数（累計）	社	—	1,500	1,200	2,026 (168.8)
子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合	%	89.5 (2019年度)	90.0以上	90.0以上	85.9 (95.4)

### 【これまでの主な成果】

- 「京都府子育て環境日本一推進会議」の設置（令和3年6月）
- 「きょうと子育て環境日本一サミット」の開催（令和3年11月）
- 「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」の普及啓発の実施（令和3年度開始）
- 府内の商店街や企業の店舗等を「きょうと子育て応援施設」と位置づけ、子ども同伴での外出を応援（令和2年度開始）
- 府内市町村の子育て環境の向上を支援する地域子育て環境「見える化」ツールを作成し、ツールの活用を促すため研修会を実施するなど市町村を支援（令和3年10月）
- 「子育て企業サポートチーム」による「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言」の取組を府内企業に展開（令和元年度開始）
- 経営者、男性従業員の意識改革を促す「ワークチェンジ塾」の開設（令和2年度開始）
- 府立医科大学附属病院を「総合周産期母子医療センター」に指定（令和3年8月）
- 不妊治療に係る通院交通費の負担軽減制度の創設（令和2年10月）
- 子連れコワーキングスペースの設置など、子育てにやさしい職場環境づくりサービスを提供する事業者を支援（令和2年度開始）

**【令和4年度実績】**

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>子育て環境日本一に向けて京都で活躍する有識者等で構成する「きょうと子育て環境日本一サミット(仮称)」を設置し、子育て環境「共同声明」を発信します。</p>	<p>◆子育て環境日本一推進会議運営事業</p> <p>「京都府子育て環境日本一推進会議」を設置し、地域や企業を含めた社会全体で子どもや子育て世代をあたたく見守り支え合う様々な取組をオール京都体制で推進。「風土づくり」「まちづくり」「職場づくり」の3部会を設置し、各分野の課題の深掘りや課題解決につながる新たな取組を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府子育て環境日本一推進会議：1回</li> <li>・風土づくり部会：3回</li> <li>・まちづくり部会：3回</li> <li>・職場づくり部会：3回</li> </ul> <p>◆子育て環境日本一推進戦略事業</p> <p>子育てに優しい風土づくり</p> <p>(ア) WEラブ赤ちゃんプロジェクトの普及啓発の実施</p> <p>京都府子育て環境日本一推進会議が賛同を宣言した、「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」の普及啓発の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトステッカー配布数：341,710枚</li> <li>・公共交通機関等でのプロジェクト広告の掲出、ステッカー配布等の協力の</li> <li>・府内商店街と連携したステッカー配布、ポスター、フラッグを掲出：36商店街</li> </ul> <p>(イ) 地域子育て環境「見える化」ツールの活用</p> <p>府内市町村の子育て環境の向上を支援する「地域子育て環境『見える化』ツール」活用の定着化を図るため、本ツールを用いた市町村研修会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施市町村：14市町</li> </ul> <p>(ウ) 妊婦や子連れ世帯の外出・移動支援モデル事業</p> <p>府内の商店街、企業の店舗及び公共施設を「きょうと子育て応援施設」と位置づけ、子ども同伴での外出を応援する取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施店舗：790店舗</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おむつ回収機の試験的設置（3か月間）：4商店街6店舗</li> </ul> <p>(エ) 赤ちゃん運動会の開催</p> <p>地域で子育てをあたたく見守る仕組みを構築することを目的とし、地域の人材を活かした交流機会を創出するため、赤ちゃん運動会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：令和5年2月23日</li> <li>・場 所：宇治市生涯学習センター</li> <li>・来場者：約200人</li> <li>・参加者：親子25組</li> </ul>
<p>新たに地域の子育て環境の充実度を数値化する指標を「地域子育て充実度見える化システム」として構築し、それを通じて自治会等の各地域がコミュニティで考え、各地域で自発的に行動する意識を高めます。</p>	<p>◆子育て環境日本一推進戦略事業 (地域子育て環境「見える化ツール」の活用)</p> <p>府内市町村の子育て環境の向上を支援する「地域子育て環境『見える化』ツール」活用の定着化を図るため、本ツールを用いた市町村研修会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施市町村：14市町</li> </ul>
<p>「子育て企業サポートチーム」の企業訪問により、「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言」の取組を進め、時間単位の年休取得、不妊治療に係る休暇、短時間勤務等の柔軟な制度導入と、男女が共に働きやすい職場環境づくりを進めます。</p>	<p>◆子育てにやさしい職場づくり事業</p> <p>(1) 子育てにやさしい職場づくりを進める企業の気運の醸成</p> <p>ア 中小企業応援隊、京都ジョブパークの企業支援コンサルティングチーム及び府職員の約300人で構成する子育て企業サポートチームを結成し、府内企業への訪問を通じて、国や府の子育て支援制度を周知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業訪問件数：17,915社</li> </ul> <p>イ 子育てにやさしい職場環境づくりに向けた具体的行動を企業経営者が従業員に対して宣言し、実行する子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場づくり行動宣言を行った企業数：384社</li> </ul> <p>(2) 子育てにやさしい職場づくりを実施する企業等への支援（多様な働き方推進事業費補助金）</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言の実現に向け、府内中小企業等が実施する時間単位の年次有給休暇制度の導入など、職場の環境改善に必要となる経費に対し助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付企業数：52社</li> <li>・ 交付額：17,863千円</li> </ul> <p>(3) 子育てにやさしい職場づくりに資するサービスの提供企業等への支援</p> <p>子連れコワーキングスペースの設置・運営など、子育てにやさしい職場環境づくりに役立つサービスメニューを府内企業等へ提供する事業者のスタートアップを支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付企業数：4社</li> <li>・ 交付額：5,915千円</li> </ul> <p>(4) 子育てにやさしい職場づくり実践企業の情報発信</p> <p>ア 実践企業と求職者をつなぐイベントの開催</p> <p>(ア) 新感覚ジョブ博</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日時：令和4年11月12日（土） 13：00～16：30</li> <li>・ 会場：京都経済センター</li> <li>・ 出展：「これなら負けない」「これには自信がある」といった「強み」を持った京都ならではの企業25社</li> <li>・ 対象：京都で就職先を探す一般求職者・令和5年3月卒業予定の大学生等</li> <li>・ 内容：合同企業説明会</li> <li>・ 参加者数：112人</li> </ul> <p>(イ) 理系女子大学生と京都企業との交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日時：令和5年3月17日（金） 14：00～16：00</li> <li>・ 会場：関西大学</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出展：くるみん認定を持つ京都を代表する企業5社</li> <li>・ 対象：理系女子大学生・大学院生</li> <li>・ 内容：企業との交流会</li> <li>・ 参加者数：27人</li> </ul> <p>イ webサイトを活用した実践企業の情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発信企業数：8社</li> </ul>
<p>子育てにやさしい職場づくりを進めるため「ワークチェンジ塾」を開設し、経営者・男性社員などを対象にした意識改革の合同研修会を開催するとともに、男性社員の育児休業取得促進やワーク・ライフ・バランスを考慮した人事評価制度の導入を支援します。</p>	<p>◆男性育休促進事業</p> <p>男性育休の取得促進を図るため、男性従業員や人事・総務担当社員等の意識改革を促進するセミナー等の開催を通じて、育休を取得しやすい職場風土の醸成を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催回数：4回</li> <li>・ 参加者数：延べ67人</li> </ul>
<p>若者向けの「ライフデザインカレッジ」を創設し、SNS等を活用し、結婚や子育てに関する支援制度等を発信するとともに、若者が、就学、仕事、結婚、子育てなどのトータルの人生設計を早期に考え、多様なライフデザインを自ら選択することができるよう、ワークショップや仕事と子育ての両立体験インターンシップなどの機会を提供します。</p>	<p>◆子育て環境日本一推進戦略事業 (京都若者ライフデザイン推進事業)</p> <p>若者(大学生や企業の若手社員)が人生設計を考えるきっかけづくりのため、ワークショップや仕事と子育てを両立している家庭との交流等、体験的に学ぶプログラムを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワorkshop開催数：延べ33校・団体</li> <li>・ ワorkshop受講者数：2,115人</li> <li>・ 仕事と育児の両立体験事業 参加企業数：14社</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>府立医科大学附属病院においてNICU（新生児集中治療室）を増床するとともに、京都第一赤十字病院、京都大学医学部附属病院に加えて「総合周産期母子医療センター」に指定するなど、周産期医療ネットワークを拡充します。</p>	<p>◆NICUの増床については、令和元年度に6床から9床に増床し、事業完了済み。</p> <p>◆令和3年8月1日「総合周産期母子医療センター」に指定済み。</p> <p>◆総合周産期母子医療センターと北中部地域・山城地域の地域周産期母子医療センター及び分娩取扱病院に、妊産婦の患者情報を共有するための妊産婦モニタリングシステムを導入。</p>
<p>「不妊治療総合支援システム」を確立し、男性の不妊治療に係る支援の拡充など不妊治療に係る経済的負担の軽減に加え、特定不妊治療に係る通院交通費の負担軽減制度を創設するとともに、企業等における不妊治療休暇制度の導入を支援します。</p>	<p>◆子育て環境日本一推進戦略事業</p> <p>(1) 不妊治療給付等事業  一般不妊治療（保険適用治療、先進医療、不育症治療）及び特定不妊治療（体外受精・顕微授精等）への助成、通院交通費に対する助成等を実施し、患者負担の軽減を図った。  ・治療費助成件数：3,953件  ・通院交通費助成件数：274件</p> <p>(2) 多胎妊婦健康診査支援事業費  単胎児に比べリスクが高まる多胎児妊娠において、市町村が実施する追加の妊婦健診に係る費用を支援した。  ・実施市町村：18市町</p> <p>◆子育てにやさしい職場づくり事業</p> <p>(1) 子育てにやさしい職場づくりを進める企業の気運の醸成  ア 中小企業応援隊、京都ジョブパークの企業支援コンサルティングチーム及び府職員の約300人で構成する子育て企業サポートチームを結成し、府内企業への訪問を通じて、国や府の子育て支援制度を周知した。  ・企業訪問件数：17,915社</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>イ 子育てにやさしい職場環境づくりに向けた具体的行動を企業経営者が従業員に対して宣言し、実行する子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場づくり行動宣言を行った 企業数：384社</li> </ul> <p>(2) 子育てにやさしい職場づくりを実施する企業等への支援（多様な働き方推進事業費補助金）</p> <p>子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言の実現に向け、府内中小企業等が実施する時間単位の年次有給休暇制度の導入など、職場の環境改善に必要となる経費に対し助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交付企業数：52社</li> <li>・交 付 額：17,863千円</li> </ul> <p>(3) 子育てにやさしい職場づくりに資するサービスの提供企業等への支援</p> <p>子連れコワーキングスペースの設置・運営など、子育てにやさしい職場環境づくりに役立つサービスメニューを府内企業等へ提供する事業者のスタートアップを支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交付企業数：4社</li> <li>・交付額：5,915千円</li> </ul> <p>(4) 子育てにやさしい職場づくり実践企業の情報発信</p> <p>ア 実践企業と求職者をつなぐイベントの開催</p> <p>(ア)新感覚ジョブ博</p> <p>日時：令和4年11月12日（土） 13：00～16：30</p> <p>会場：京都経済センター</p> <p>出展：「これなら負けない」「これには自信がある」といった「強み」を持った京都ならではの企業25社</p> <p>対象：京都で就職先を探す一般求職者・令和5年3月卒業予定の大学生等</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>内容：合同企業説明会 参加者数：112人</p> <p>(イ) 理系女子大学生と京都企業との交流会 日時：令和5年3月17日（金） 14：00～16：00 会場：関西大学 出展：くるみん認定を持つ京都を代表する企業5社 対象：理系女子大学生・大学院生 内容：企業との交流会 参加者数：27人</p> <p>イ webサイトを活用した実践企業の情報発信 ・発信企業数：8社</p>
<p>女性のM字カーブを解消するため、「在宅ワーク」「共同サテライトオフィス勤務」などを段階的に進め、企業への就職につなげる新しいビジネスモデルとして、「ホップ・ステップ・ジャンプ型就業プロジェクト」を創設し、子育て期からの仕事復帰を支援します。</p>	<p>◆子育てにやさしい職場づくり事業</p> <p>(1) 子育てにやさしい職場づくりを進める企業の気運の醸成</p> <p>ア 中小企業応援隊、京都ジョブパークの企業支援コンサルティングチーム及び府職員の約300人で構成する子育て企業サポートチームを結成し、府内企業への訪問を通じて、国や府の子育て支援制度を周知した。 ・企業訪問件数：17,915社</p> <p>イ 子育てにやさしい職場環境づくりに向けた具体的行動を企業経営者が従業員に対して宣言し、実行する子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言の取組を実施した。 ・職場づくり行動宣言を行った企業数：384社</p> <p>(2) 子育てにやさしい職場づくりを実施する企業等への支援（多様な働き方推進事業費補助金） 子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言の実現に向け、府内中小企業等が実施する時間単位の年次有給休暇制度の導入など、</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>職場の環境改善に必要となる経費に対し助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付企業数：52社</li> <li>・ 交付額：17,863千円</li> </ul> <p>(3) 子育てにやさしい職場づくりに資するサービスの提供企業等への支援</p> <p>子連れコワーキングスペースの設置・運営など、子育てにやさしい職場環境づくりに役立つサービスメニューを府内企業等へ提供する事業者のスタートアップを支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付企業数：4社</li> <li>・ 交付額：5,915千円</li> </ul> <p>(4) 子育てにやさしい職場づくり実践企業の情報発信</p> <p>ア 実践企業と求職者をつなぐイベントの開催</p> <p>(ア) 新感覚ジョブ博</p> <p>日時：令和4年11月12日（土） 13：00～16：30</p> <p>会場：京都経済センター</p> <p>出展：「これなら負けない」「これには自信がある」といった「強み」を持った京都ならではの企業25社</p> <p>対象：京都で就職先を探す一般求職者・令和5年3月卒業予定の大学生等</p> <p>内容：合同企業説明会</p> <p>参加者数：112人</p> <p>(イ) 理系女子大学生と京都企業との交流会</p> <p>日時：令和5年3月17日（金） 14：00～16：00</p> <p>会場：関西大学</p> <p>出展：くるみん認定を持つ京都を代表する企業5社</p> <p>対象：理系女子大学生・大学院生</p> <p>内容：企業との交流会</p> <p>参加者数：27人</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	イ w e bサイトを活用した実践企業の情報発信 ・発信企業数：8社
<p>「地域の働く場創出・育成プロジェクト」を創設し、アクセラレーションプログラムのほか、</p> <p>▷地域資源を生かした商品づくりや農家民宿・農家レストランなどの小さな仕事興しをはじめ、伝統産業の商品開発力向上に向けた「NEOKOUGEI」の製造など、地場産業の成長を支援します。</p> <p>▷子どもが元気に遊び回れる公園や子育て中の方がテレワークできる機能を有した「子育てにやさしい企業団地」の整備を促進し、企業立地を進めます。</p>	<p>◆伝統産業産地振興拠点創出事業</p> <p>(1) 拠点形成に向けた新事業の創出促進 西陣・堀川エリアや丹後地域において、テキスタイル分野の若手デザイナーやアーティスト、事業者等を集め、新たな事業創出を促進した。</p> <p>・参画事業者数：10事業者</p> <p>(2) 海外ビジネス展開等の総合支援 上海「KYOTO HOUSE」等を拠点とした、工芸品のさらなる海外展開を促進した。</p> <p>・買取実現事業者数：91事業者 ・買付額：36,924,321円</p> <p>(3) 新たな海外販売拠点の開設支援 「生活文化提案型産業」への変革に取り組む京都の伝統産業の商品等を取り扱う海外の新たな販売拠点「KYOTO Concept Store」の開設を支援した。</p> <p>(4) 海外展開のための新商品開発等に対する助成 伝統産業事業者のグループに対して、海外等のニーズに応じた新商品開発や販路開拓等を支援した。</p> <p>・交付件数：12件 ・交付額：49,001千円</p> <p>◆次世代職人育成事業【商工】</p> <p>(1) 京ものクオリティ市場創出事業 国内外での販路開拓を目指す事業者が、国内外の市場に精通したプロデューサー等との連携の下、海外の販売代理店を通じたマーケット開拓、マーケットニーズを踏まえた</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>商品開発の支援、海外市場向け販路開拓やEコマースを活用した伝統工芸品の販売促進を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援件数：49件</li> </ul> <p>(2) 次世代職人育成事業</p> <p>ア 職人アカデミー開催事業</p> <p>専門家によるコーチングを通じて、伝統工芸の技術を活かした新たなビジネスや商品開発を自ら発案・企画できる人材を育成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム数：10件</li> <li>・参加者数：延べ50人</li> </ul> <p>イ 京もの愛用券</p> <p>京都の伝統工芸品等を掲載したネットカタログ「京もの愛用券」を通じて、「京もの」の需要創出・販路拡大を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売実績：3,209千円</li> </ul> <p>(3) 丹後・西陣織産地活性化事業</p> <p>広幅を中心とする織物職人の育成や、関連する工程、織機調整等の研修を織物・機械金属振興センター及び西陣織工業組合において実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数：延べ384人</li> </ul> <p>(4) 新堀川魅力創造事業</p> <p>堀川新文化ビルディングを活用し、伝統工芸品の作品展やワークショップを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品展等の開催回数：39回</li> </ul> <p>(5) 文化財保存修復推進事業</p> <p>伝統工芸に携わる職人等に対して、伝統産業技術の継承や文化財の保存・修復に係る考え方を広く周知するため、セミナーを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数：延べ83人</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>新卒離職「3年の壁・再チャレンジプロジェクト」を創設し、新卒3年以内の離職など早期離職者について、インターンシップの実施や研修会の開催など、ブランクを空けない就業復帰を支援することで「安定就業」を進めます。</p>	<p>◆学生就職応援事業</p> <p>(1) インターンシップの推進による学生の業界研究支援</p> <p>学生就職センターの運営や府内企業との出会いの場となる「KYOTO業界研究フェスタ」の開催等により、学生と府内企業との交流を促進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ等の参加人数：1,443人</li> <li>・京都インターンシップナビ 掲載企業数：289社</li> <li>・「KYOTO業界研究フェスタ」 参加人数：312人</li> </ul> <p>(2) 未内定者の就職支援</p> <p>ア 未内定者向け合同企業説明会の開催</p> <p>未内定の高校生・大学生向けの合同企業説明会を開催し、府内企業とのマッチングの場を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者数：105人</li> </ul> <p>イ 未内定者の相談対応</p> <p>カウンセリングや面接対策の実施等、就職に向けたきめ細やかな伴走支援を実施し、未内定者の就職を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生就職センター延べ相談者数：1,868人</li> <li>就職内定者数：1,452人</li> </ul> <p>(3) 就職支援協定締結大学と連携した学生の府内企業への就職促進</p> <p>ア モデル事業の実施</p> <p>低年次から卒業年次までの段階的なキャリア教育を通じて学生の視野を広げ、府内企業への就職を促進させるモデル事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル事業実施大学数：2大学、1コンソーシアム</li> <li>・京都ジョブパーク新規登録者数：823人</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>イ 学内合同企業説明会等の実施 学内合同企業説明会や各種就活セミナーの実施など、就職支援協定締結大学と連携した学生の府内企業就職促進に向けた取組を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都ジョブパーク新規登録者数： 1,842人</li> </ul> <p>(4) 府内高校生の就職・定着等支援</p> <p>ア 進路指導教員及び保護者対象セミナーの開催 府内高校の進路指導教員及び保護者等を対象に府内企業をより深く知るためのセミナーを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナー等実施回数：6回</li> <li>・参加者数：13人</li> </ul> <p>イ 卒後調査の実施 卒業生の実態調査を実施し、卒業生の早期離職防止・定着、再就職を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答者数：306人</li> </ul>
<p>子育てにやさしい職場環境づくりを提供するビジネスモデルとして、「子育てにやさしい職場環境づくりサービス」の創出を支援します。</p>	<p>◆子育てにやさしい職場づくり事業 (子育てにやさしい職場づくりに資するサービスの提供企業等への支援)</p> <p>子連れコワーキングスペースの設置・運営など、子育てにやさしい職場環境づくりに役立つサービスメニューを府内企業等へ提供する事業者のスタートアップを支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交付企業数：4社</li> <li>・交付額：5,915千円</li> </ul>

## 「府民躍動」きょうとチャレンジの取組状況

### 【総括】

人生100年時代を見据え、府民の誰もが生きがいを感じることができる共生社会づくりを進めるため、「京都府生涯現役クリエイティブセンター」や「女性活躍応援塾」の開設をはじめ、「京都式農福連携・6次産業化プロジェクト」や「スポーツのメッカづくりプロジェクト」の実施、「京都産学公連携海外人材活躍ネットワーク」の創設等に取り組んだ。

### 【到達目標】

指標名称	単位	基準値 (2018年度)	目標数値 (2023年度)	参考年間 目 標 (2022年度)	実績数値 (達成率：%) (2022年度)
趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある高齢者の割合	%	72.6 (2019年度)	80.0	80.0	71.9 (89.9)
高齢者の有業率	%	25.9 (2017年)	31.0 (2022年)	31.0 (2022年)	2023年8月頃 公表予定
仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思う人の割合	%	52.2 (2019年度)	70.0	70.0	52.4 (74.9)
ワーク・ライフ・バランス認証企業数（累計）	社	407	650	600	591 (98.5)

### 【これまでの主な成果】

- 「京都府生涯現役クリエイティブセンター」の開設（令和3年8月）
- 「京都府リカレント教育推進機構」を設立（令和4年7月）し、オール京都でリカレント教育を推進
- 「女性活躍応援塾」の開設（令和3年8月）
- 「京都式農福連携・6次産業化プロジェクト」として、福祉事業所の垣根を超えた共同生産・共同受注を目的とした講座「チャレンジ・アグリ地域連携課程」を創設（令和4年4月）
- 「スポーツのメッカづくりプロジェクト」として、MS&AD CUP 2021 なでしこジャパン国際親善試合（令和3年7月）をはじめとする国際的・全国的な試合の誘致・開催
- 「京都産学公連携海外人材活躍ネットワーク」を創設し、外国人材受入・活躍促進に向けたサポート体制を構築（令和2年4月）
- 「京都府外国人住民総合相談窓口」の運営や府内における日本語教室の開設等による多文化共生の推進
- 道路や公園・河川などで、楽しく歩きたくなるネットワークや健康プログラム等を市町村等と連携して提供する「歩きたくなる健康まちづくりプロジェクト」を推進（令和4年度開始）

**【令和4年度実績】**

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>「地域別健康課題克服プロジェクト」を創設し、3大生活習慣病である、がん・心疾患・脳血管疾患等を減少させるため、健診データやレセプトデータ等のビッグデータなどから地域の健康課題や個人の健康阻害要因を明らかにし、健康づくりから安心できる医療提供体制の構築まで、市町村等と共に対策を講じます。</p>	<p>◆健康長寿・データヘルス推進事業</p> <p>(1) 糖尿病重症化予防対策事業 糖尿病重症化予防の保健指導に従事する専門職不足解消のため、府医師会、府栄養士会が実施する研修会を支援し、人材育成と人材登録を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成研修会受講者：405人</li> <li>・地域保健指導人材の登録者：145人</li> </ul> <p>(2) きょうと健康づくり実践企業認証制度事業 働き盛り世代の検診受診率の向上や健康づくりを推進するため、がん検診や健康づくり活動に取り組む府内企業を、きょうと健康づくり実践企業として認証した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認証企業：69社</li> </ul>
<p>「生涯現役クリエイティブセンター（仮称）」を設立し、高齢者が年齢にかかわらず、その技術や能力を農業や商工業・福祉などの様々な分野で発揮できるよう、仕事や生活・健康増進に係る情報提供から相談・マッチング、産業界や大学等と連携した研修・活躍の場づくりまでトータルにコーディネートします。</p>	<p>◆地域雇用再生緊急対策事業 (生涯現役クリエイティブセンター事業) 人生100年時代を見据え、誰もが年齢に関わりなく、生涯にわたって活躍し続けることができる社会の実現を目指すため「京都府生涯現役クリエイティブセンター」を設置し、キャリア相談から、リカレント研修の実施、情報の発信等を行うことで、人手不足分野等への労働移動や地域貢献に資する人材育成を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア相談件数：延べ368件</li> <li>・リカレント研修参加者数：3,299人</li> <li>・リカレント教育情報利用件数：2,934件</li> </ul> <p>◆京都府生涯現役クリエイティブセンター支援強化事業</p> <p>(1) リカレント教育プログラムの開発 新たに若者や女性を対象としたリカレント教育プログラムを開発・実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発プログラム：2コース</li> <li>・受講者数：27人</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>(2) 京都府リカレント教育推進事業費補助金 府内全域でリカレント教育を推進するため、新たに大学や経済団体等がリカレント教育推進事業を実施するために要する経費に対して助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交付件数：3件</li> <li>・交付額：1,107千円</li> </ul> <p>(3) 京都府リカレント教育推進機構の設立 オール京都体制によりリカレント教育の推進に取り組むため、京都府リカレント教育推進機構を設立した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設立日：令和4年7月28日</li> <li>・参画団体数：54団体</li> </ul>
<p>「女性活躍応援塾(仮称)」を開設し、地域で活動する団体・個人の発掘・育成を行うほか、活動情報を一元化して発信し、地域で活躍する女性を総合的に支援します。</p>	<p>◆女性活躍応援塾事業</p> <p>地域活動を始めたい女性や、地域活動を継続・発展させたい女性を対象にして女性活躍応援塾を実施し、様々な分野で活躍する女性リーダーを育成した。</p> <p>(1) 女性活躍応援塾の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者数：3団体、1個人</li> </ul> <p>(2) 輝く女性応援補助事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助件数：13件</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>「京都式農福連携・6次産業化プロジェクト」を創設し、障害者の就農・就労人材を育成するチャレンジ・アグリ認証の上級課程を構築するとともに、農福連携製品の6次産業化やブランド化を支援し、京都式農福連携事業を生かした農業分野での就労を促進します。</p>	<p>◆京都式農福連携事業</p> <p>きょうと農福連携センターを中心に、農福連携を通じて地域社会づくりを行う事業所に対する補助や、農産物等を販売する「マルシェ」の開催、農業技術等に係るアドバイザーの派遣、就農促進や意欲向上のためのキャリアパス制度の運営等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都式農福連携補助金：8事業所</li> <li>・マルシェ開催：11回</li> <li>・アドバイザー派遣：8回</li> <li>・チャレンジ・アグリ認証修了 (実践課程4人、地域連携課程4事業所)</li> </ul>
<p>「スポーツのメッカづくりプロジェクト」を創設し、</p> <p>▷府立京都スタジアムにおいて、府民がハイレベルなスポーツを身近に体感でき、青少年の夢とあこがれの舞台となるよう、プロスポーツのほか国際的、全国的な試合や高校、大学スポーツの決勝戦等を誘致・開催します。</p> <p>▷府立京都スタジアムや各地域がそれぞれのポテンシャルを生かして、様々なスポーツを行い、スポーツの裾野を広げるとともに、ボルダリングやニュースポーツ、eスポーツなどのメッカとなる取組を進めます。</p>	<p>◆京都スタジアム管理事業</p> <p>京都スタジアムにおいて国際的、全国的な試合等を開催した。</p> <p>(1) 皇后杯 J F A 第44回全日本女子サッカー選手権大会準決勝戦の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：令和5年1月22日</li> </ul> <p>(2) J F A U-18女子サッカーファイナルズ2022準決勝戦、決勝戦の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：令和4年9月17日 9月19日</li> </ul> <p>◆京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業</p> <p>府内プロスポーツチームに所属するトップアスリート等を招聘し、子どもたちが様々な競技種目をアスリートと体験できる交流会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：令和4年12月10日</li> <li>・場 所：府立京都スタジアム</li> <li>・参加者数：小学生1,656人</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>◆ニュースポーツ・e スポーツ競技環境整備支援事業</p> <p>京都スタジアムを活用した大会等の開催や人材育成に取り組む事業に対して助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成件数：4件</li> </ul>
<p>「産学公連携海外人材活躍ネットワーク」を創設し、研究者等の高度外国人材や介護・農業など特定技能者等の外国人、留学生が安心して活動し暮らせるための受入体制を構築し、海外ネットワークを生かした人材確保から、インターナショナルスクールの誘致や居住環境面の相談、地域の多文化共生まで、オール京都でサポートします。</p>	<p>◆多文化共生推進事業</p> <p>(1) 京都府外国人住民総合相談窓口の運営</p> <p>外国人住民に対する生活情報の提供・相談を行う「京都府外国人住民総合相談窓口」を運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対応言語：23言語</li> <li>・相談件数：987件</li> </ul> <p>(2) 府内における日本語教育の総合的な体制づくり</p> <p>「地域における日本語教育推進プラン」に基づき、地域における日本語教育の取組を総合的に推進した。</p> <p>ア 日本語教室空白地域における新たな教室の開設支援</p> <p>新たな日本語教室を開設するために、地域日本語教育コーディネーターの派遣等の支援を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開設地域：宮津市</li> </ul> <p>イ 初期日本語教育の広域的な展開のための研修機会の提供</p> <p>日本語を初めて学ぶ外国人住民の学習機会を確保するため、日本語教室の学習支援者が初期日本語教育を学ぶ場を対面形式とオンライン形式のハイブリットで設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者数：55人</li> </ul> <p>ウ 市町村、地域日本語教室及び企業等が参加する意見交換会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施箇所：1箇所</li> <li>・参加者数：12名</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>◆中小企業等外国人材受入緊急支援事業</p> <p>外国人材の受入れを行う中小企業等に対し、入国後の待機に要する経費を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付企業数：27 社</li> <li>・ 交付額：1,086 千円</li> </ul>
<p>道路や公園・河川などで、楽しく歩きたくなるネットワークや健康プログラム等を市町村やNPO等と連携して提供する「歩きたくなる健康まちづくりプロジェクト」の取組を進めます。</p>	<p>◆第12回京都府景観まちづくりフォーラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催日：令和5年3月15日</li> <li>・ 講演テーマ：「ウォーカブルなまちづくりと生きた景観マネジメント」</li> <li>・ 講師：大阪公立大学 嘉名光市教授 (ウォーカブルの専門家)</li> <li>・ 参加人数：33人</li> </ul> <p>講演と併せて、地元まちづくり団体や来場者とのパネルディスカッションも実施</p>

## 「文化創造」きょうとチャレンジの取組状況

### 【総括】

地域文化を大切にするとともに新しい文化が生まれ続け、地域に活力を生み出す社会づくりを、文化庁が本格移転する京都から進めるため、府立高校との連携による次世代への文化継承をはじめ、「障害者アート創造・発信プロジェクト」や「文化財保存・活用促進プロジェクト」の実施、「京都国際アートフェア」の開催等に取り組んだ。

### 【到達目標】

指標名称	単位	基準値	目標数値	参考年間目標	実績数値 (達成率：%)
		(2018年度)	(2023年度)	(2022年度)	(2022年度)
府内のアートフェア等に参加する若手アーティスト（40歳以下）の数	人	108	160	150	162 (108.0)
府内のアートフェア等における販売額	万円	2,515	33,000	25,500	46,733 (183.3)
文化・芸術に関わりを持つ（鑑賞・体験含む）人の割合	%	57.8	70.0	70.0	62.7 (89.6)
歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人の割合	%	84.9 (2019年度)	90.0	90.0	84.4 (93.8)

### 【これまでの主な成果】

- 「京の文化継承・価値創造推進校」を指定し、茶道や華道、古典に関する講義や作法を通して、規範意識や思いやりの心を学ぶ授業を実施（令和2年度開始）
- 京の食文化ミュージアム・あじわい館に、京の食文化の語り部を設置し、京の食文化等の魅力を学び・体験する場を提供
- 「きょうと障害者文化芸術推進機構」での企画展やデジタルアーカイブ事業を通じて、作家と作品購入希望者をつなぐとともに、様々な角度から魅力を発信
- 「京都音楽祭～府民とつくるミュージックフェスティバル～」の開催（令和5年2月）
- 「文化財保存・活用促進プロジェクト」を創設し、個性豊かな地域における文化資源の魅力を活かした地域文化に親しむ取組を行う団体へ支援（令和元年度開始）
- 地域文化振興の仕組づくりとして「文化観光サポーター」を配置（令和3年度開始）
- 「Art Collaboration Kyoto」の開催（令和2年度開始）

**【令和4年度実績】**

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>府立高校において、「京の文化継承・価値創造推進校」を指定し、地域文化のフィールドワークや着物の着付けなどの体験活動に加え、ユネスコ無形文化遺産に登録された和食について学ぶ授業、留学生との交流における宇治茶の呈茶、京野菜を使った新しいレシピの提案など、京都の本物の文化を次世代に継承し新たな価値を生み出す取組を進めます。</p>	<p>◆高校生伝統文化事業</p> <p>府立高等学校において、総合的な探究の時間等を活用し、茶道や華道、古典に関する講義や作法を通して、規範意識や思いやりの心を学ぶ授業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茶道：全校</li> <li>・華道：山城高等学校ほか28校</li> <li>・古典：清明高等学校ほか25校</li> <li>・京の文化継承・価値創造推進校：清明高等学校ほか17校</li> </ul> <p>◆京の食文化情報発信事業</p> <p>京の食文化ミュージアム・あじわい館において、京都府の農林水産物や京の食文化の魅力を学び・体験する場を提供し、府内産農林水産物の需要拡大を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者数：14,777名</li> <li>・京の食文化の語り部による魅力発信活動語り部7人、活動実績延べ49日間</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>「障害者アート創造・発信プロジェクト」を創設し、</p> <p>▷文化芸術活動を行う障害者のアート作品を様々な機会を活用して販売したりポストカードとして商品化するなどの取組を進めます。</p> <p>▷障害者アートについて、新しい作家の発掘を含め、その創作活動とともにデジタルにより記録・保存し、広く国内外に発信します。</p> <p>▷きょうと障害者文化芸術推進機構と府内の芸術大学とのコラボレーションによる作品展等を開催します。</p>	<p>◆障害者文化・スポーツ振興事業 (自立型障害者アート推進事業)</p> <p>「きょうと障害者文化芸術推進機構」の運営や芸術作品のアーカイブ化を行い、文化芸術活動を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者文化芸術展の企画・開催 来場者数：2,451人</li> <li>・「共生の芸術祭 わたしはメモリー」 来場者数：878人</li> <li>・とっておきの芸術祭 来場者数：2,073人</li> <li>・アートサポーター等人材育成 3回延べ27人受講</li> <li>・アーカイブ「アートと障害のアーカイブ・京都」 作家数：20人</li> </ul>
<p>府内各地で「ミュージックキャンプ」を開催し、その成果を「府民総合奏」として府立京都スタジアムで発表し、音楽の裾野を拡大します。</p>	<p>◆文化芸術発信強化事業 府民とつくるミュージックフェスティバルの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場 所：京都コンサートホール</li> <li>・開催日：令和5年2月23日</li> <li>・参加者：1,336人</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>「文化財保存・活用促進プロジェクト」を創設し、</p> <p>▷文化財の価値や継承の大切さが広く地域の人々に伝わるよう、社寺等の文化財において地域の特色を生かした文化に親しむ取組を支援するなど、文化財に親しむ機会を増やすことで、保存に対する認識も高まるという、文化財の「保存」と「活用」の好循環を生み出します。</p> <p>▷文化財の公開等を支援する、文化財の専門知識を有した人材を養成します。</p> <p>▷文化財の高精細画像化やVR、AR等の利用を図り、観光・教育資源として活用するほか、関西文化学術研究都市において、触れることのできるクローン文化財の展示・作製の拠点を整備し、アジアの文化財センターをめざします。</p>	<p>◆文化財活用支援事業</p> <p>社寺等の文化財を活用し、個性豊かな地域の文化資源の魅力を活かし、地域における文化に親しむ取組を行う団体を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成件数：7件</li> </ul> <p>◆令和元・3年度に「文化財コーディネーター」を養成し、事業完了済</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度：22人</li> <li>・令和2年度：－ (新型コロナウイルス感染症拡大のため中止)</li> <li>・令和3年度：41人</li> </ul> <p>養成人数：63人</p> <p>◆「恭仁宮を体験しよう」において、恭仁宮跡から出土した瓦を3Dデータ化し、ホログラム技術を用いて展示した。</p>
<p>文化庁と連携し、暮らしの中に息づく伝統文化や生活文化を守り伝えるため、「地域文化継承プロジェクト」として、地域の祭りや伝統芸能の担い手確保に向け、大学生など外部人材の活用の仕組みを創設します。</p>	<p>◆地域文化活性化推進事業</p> <p>地域の伝統芸能や行催事等地域の文化資源の魅力を高め、文化観光の推進による地域文化振興の仕組みづくりを支援した。</p> <p>(記録作成事業)</p> <p>地域の民族芸能映像の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及映像：15本</li> <li>・記録映像：12本</li> </ul> <p>専門人材による地元との連携・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化観光サポーター：8名配置</li> </ul> <p>(後継者養成事業)</p> <p>有識者による講演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海の京都：令和4年7月22日 参加者12名</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶の京都：令和4年7月8日 参加者23名</li> <li>・民族芸能体験 宮津おどり体験モニターツアー 参加者6名</li> <li>・二月堂竹送り体験ツアー 参加者9名</li> <li>・福知山市内の小学校で動画を活用した出張講座を開催 参加者4校・170名</li> <li>・個別相談につなげるPR 令和4年4月～令和5年3月 FM丹波 計12回</li> </ul>
<p>「京都国際アートフェア」の開催により、世界で活躍する一流アーティストの作品や京都と世界のクラフトを一堂に鑑賞、販売できる機会を提供し、日本の現代アートの価値向上やクラフトの世界展開を後押しします。</p>	<p>◆京都作家マーケット開拓支援事業 国際的なアート展を開催し、国内外の美術関係者と京都の作家とのマッチングなど、作家のステップアップに繋がるマーケットを開拓した。</p> <p>(1) Art Collaboration Kyotoの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催場所：国立京都国際会館他</li> <li>・開催日：令和4年11月18日～20日</li> <li>・入場者数：16,541人</li> </ul> <p>(2) ARTIST'S FAIR KYOTO 2023</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催場所：京都文化博物館 別館他</li> <li>・開催日：令和5年3月4日～3月5日</li> <li>・入場者数：11,478人</li> </ul> <p>(3) Kyoto Art for Tomorrow 2023—京都府新鋭選抜展—の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催場所：京都文化博物館</li> <li>・開催日：令和5年1月21日～2月5日</li> <li>・入場者数：15,176人</li> </ul> <p>(4) 京都アートラウンジの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会 開催場所：ハイアットプレイス京都</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>参加者数：75名  (参加者45名、作家30名)</p> <p>・オープンスタジオ企画「OPEN ARTIST'S STUDIOS 2023」</p> <p>開催場所：市内5箇所の共同スタジオ</p> <p>開催日：令和5年3月2日～3月5日</p> <p>参加者数：840人</p>
<p>VR、AR等を活用した地域の文化資源を体験できる文化発信・観光まちづくりの拠点「地域文化次世代情報発信・体験拠点」を整備します。</p>	<p>次年度以降対応  (今後は、VR、AR等を活用した地域文化の魅力発信について実施手法から検討していく。)</p>
<p>府立文化芸術会館等、老朽化が進む既存文化施設の機能継承も踏まえ、様々な規模の劇場等が集積した「シアターコンプレックス」など、旧総合資料館跡地、植物園などの整備に取り組みます。</p>	<p>◆北山エリア整備関連事業  施設ごとに有識者による意見聴取会議を開催するとともに、ワークショップ等により利用者や府民等から幅広く意見聴取を行う等、必要な検討を実施した。</p>
<p>「堀川アート&amp;クラフトセンター(仮称)」を活用したクオリティーの高い多様なイベントの展開により、アート&amp;クラフトの創造・発信を強化します。</p>	<p>◆次世代職人育成事業  (新堀川魅力創造事業)  堀川新文化ビルディングを活用し、伝統工芸品の作品展やワークショップを開催した。  ・作品展等の開催回数：39回</p>

## 「新産業創造・成長」きょうとチャレンジの取組状況

### 【総括】

企業のスタートアップから成長、継承まで、イノベーションが起これ続ける最適な事業環境の創造を京都から進めるため、「起業するなら京都・プロジェクト」を創設し、オール京都で起業創出支援の充実等を戦略的に推進するとともに、中小企業の海外展開・成長・事業承継への支援、「観光プロジェクト」による高度人材の育成、スマート農林水産業の推進や「環境イノベーション創出プロジェクト」等に取り組んだ。

### 【到達目標】

指標名称	単位	基準値	目標数値	参考年間目標	実績数値 (達成率：%)
		(2018年度)	(2023年度)	(2022年度)	(2022年度)
従業者1人当たりの付加価値額（製造業）	千円	15,168 (2018年)	21,000 (2023年)	19,800 (2022年)	公表時期未定
開業率	%	4.3 (2016年)	5.1 (2021年)	—	公表時期未定
海外ビジネスセンターを通じ新たに海外展開に取り組んだ企業数（累計）	社	10	100 (2019～ 2023年度)	80	165 (206.3)
農林水産業の産出額	億円	786 ※2013年～2017年の5年間における最大最小を除いた3年平均	820 (2023年)	815 (2022年)	2024年3月頃 公表予定

### 【これまでの主な成果】

- 世界に伍するスタートアップ・エコシステムの形成に向けて、「京都スタートアップ・エコシステム推進協議会」を設立（令和元年12月）し、起業創出支援等を推進
- 脱炭素をテーマに、世界に伍するスタートアップ集積拠点「Z E T - v a l l e y」の形成を推進（令和4年度開始）
- 「シェアリングエコノミー促進プロジェクト」として、中小企業共同型ものづくり支援事業や共創型ものづくり等支援事業を実施
- 京都府の文化・芸術の力を生かし、アートとテクノロジーを融合させた新たな産業創造拠点「アート&テクノロジー・ヴィレッジ京都」の整備（令和5年3月）
- 京都海外ビジネスイノベーション交流会等のセミナーを通じて、海外販路開拓事業の活用を進めるとともに、事業者同士のネットワークを構築（令和元年度開始）
- 新たな観光需要に対応できる高度観光人材の育成に向けたセミナー等の実施
- スマートアグリ・イノベーションセンターの設置等に向け、スマート技術の導入に取り組む生産者への支援や相談窓口の設置（令和元年度開始）
- 京都府・京都市・総合地球環境学研究所の3者で「京都気候変動適応センター」を設置し、気候変動影響に関する情報収集、分析、発信等を実施（令和3年7月）
- 府北部計3箇所で燃料電池フォークリフトの活用と水素供給モデルの構築に向けた実証事業を実施（令和4年度）

**【令和4年度実績】**

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>めまぐるしく変化する未来社会を生き抜く力をはぐくむため、実社会という生きた教材から答えのない問いに挑む「課題解決型学習」等の機会の充実に向けて、企業や大学等とともに構成する産学連携型学習「京都『結(ゆい)』コンソーシアム(仮称)」により官民一体の教育を進めます。</p>	<p>◆「京都『結(ゆい)』コンソーシアム(仮称)」の取組みに繋げるため、企業や大学等と連携し、課題解決型学習や探究的な学習などを実施した。</p>
<p>「起業するなら京都・プロジェクト」を創設し、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▷スタートアップ企業が単独では実現困難なビジネスアイデアを実現するアクセラレーションプログラムの取組(世界中の有能な人材が京都に3箇月程度滞在し、ピッチ会やアイデアソンの実施により投資を集める)を推進し、世界中から有能な人材や企業が集う仕組みをつくります。</li> <li>▷多様なニーズに対応したインキュベーション施設を供給します。</li> <li>▷創業支援、経営革新、販路開拓など、中小企業応援センターでトータルサポートします。</li> <li>▷小中学生がものづくり体験や科学技術に身近に触れることのできる機会の提供や、高校生を対象にした「ベンチャー講座」を開設します。</li> </ul>	<p>◆起業するなら京都・プロジェクト推進事業</p> <p>(1) スタートアップ創出支援</p> <p>ア 起業創出プログラムの実施</p> <p>大学発、外国人、企業内など多様なスタートアップ企業を創出するためのプログラムを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム数：88件</li> <li>・参加者数：1,252人</li> </ul> <p>イアントレプレナー教育の実施</p> <p>小・中学生を対象とした起業家教育プログラムを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加チーム数：5チーム</li> <li>・参加者数：26人</li> </ul> <p>ウ 外国人のスタートアップ支援窓口の運営</p> <p>外国人起業家、留学生が起業準備活動に必要な在留資格を得るための支援窓口を設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数：98件</li> <li>・スタートアップ・ビザ取得件数：8件</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>エ アクセラレーションプログラムの実施 新事業の創出を集中的に支援するアクセラレーションプログラムを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加チーム数：4チーム</li> </ul> <p>オ 社会課題解決の取組への助成 社会課題の解決に資することを目的に、AIやIoT等のスマート技術を活用した新しいサービスや技術の開発を行うスタートアップ企業等に対して助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交付件数：2件</li> <li>交付額：3,162千円</li> </ul> <p>カ iPS細胞関連等研究開発支援 ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディング等により広く寄附を募り、今後の需要拡大が見込まれるiPS細胞関連の産業化に向けて、公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団等に対して財政支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寄附額：21,600千円</li> </ul> <p>(2) スタートアップ・エコシステム推進体制整備 一般社団法人京都知恵産業創造の森をハブに、京都スタートアップ・エコシステム推進協議会、大阪・ひょうご神戸コンソーシアムと連携体制を構築した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>京都スタートアップ・エコシステム推進協議会開催回数：1回</li> <li>京阪神連携プログラム件数：9件</li> </ul> <p>◆世界に伍するスタートアップ支援事業</p> <p>(1) 大型資金調達ピッチ会の開催 大型資金を調達するために首都圏等の投資家等を招聘したピッチ会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開催回数：7回</li> <li>登壇企業数：47社</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>(2) 協業獲得ピッチ会の開催  協業パートナーを獲得するために事業会社等を招聘したピッチ会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催回数：4回</li> <li>・登壇企業数：60社</li> </ul> <p>◆Z E T - v a l l e y 推進事業</p> <p>(1) 「Z E T - s u m m i t」の開催  国内外の脱炭素関連スタートアップ企業と大企業等との交流や、産学公の関係者が一堂に会して京都のまちづくり・地域産業への技術導入に向けた提案・検討等を行う場として「Z E T - s u m m i t」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者数：3,574人</li> <li>・マッチング数：619件</li> </ul> <p>(2) 「Z E T - c o l l e g e」の開講  いくつもの学問分野、産業分野にまたがる脱炭素の課題を総合的な知見及び柔軟な発想で解決できる人材を育成する「Z E T - c o l l e g e」を開講した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催回数：3回（オンライン）</li> <li>・参加者数：305人</li> </ul> <p>(3) 脱炭素の共創プロジェクトの創出  EV、バッテリー、バイオものづくりなど、世界的競争力を有する企業や研究者等が集積する京都の強みを活かすための研究会（ゼロカーボンものづくりプロジェクト）を開催し、脱炭素の共創プロジェクトを創設した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創出プロジェクト数：11件</li> </ul> <p>◆中小企業総合応援事業  （中小企業応援隊事業）  中小企業応援隊が中小企業や商店街等の強みや弱みを把握した上で、中小企業の経営安定や発展を支援するため、訪問コンサルティングを実施した。</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>ア 中小企業応援隊の概要</p> <p>(ア) 構成 商工会、商工会議所、京都府商工会連合会、京都府中小企業団体中央会及び公益財団法人京都産業 21 の経営指導を担当する職員を応援隊員として委嘱</p> <p>(イ) 隊員数 299 人</p> <p>イ 令和4年度訪問件数等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実訪問企業数：15,741 社</li> <li>延べ訪問件数：42,131 件</li> </ul> <p>(業種別内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製造業：12,105 件</li> <li>建設業：4,389 件</li> <li>小売業：9,791 件</li> <li>卸売業：1,891 件</li> <li>サービス業：11,698 件</li> <li>その他：2,257 件</li> </ul> <p>◆金融・経営一体型支援体制強化事業</p> <p>(1) 中小企業知恵の経営ステップアップ事業 中小企業等の成長段階に応じた販売促進・設備更新・コスト削減等の経営改善につながる取組や創業・第二創業を支援するため、中小企業応援隊による訪問コンサルティングを通じた助成支援を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交付件数：1,285 件</li> <li>・交 付 額：243,756 千円</li> </ul> <p>(2) WITHコロナ・POSTコロナチャレンジ事業 コロナ禍でのビジネスモデル転換等をよりきめ細かく支援するため、「WITHコロナ・POSTコロナチャレンジ補助金」により、中小企業等の新事業展開、経営改善等に係る取組に対して助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交付件数：351 件</li> <li>・交 付 額：190,468 千円</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>◆京都産業立地促進事業 (京都産業立地戦略 21 特別対策事業) 地域特性に応じた企業誘致を促進するため、企業の施設整備や地元雇用に対して助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付企業数：30 企業</li> <li>・ 交付額：1,318,905 千円</li> <li>・ 投下固定資産額：118,945,807 千円</li> <li>・ 新規府内常用雇用者数：402 人</li> </ul> <p>◆アート&amp;テクノロジー・ヴィレッジ推進事業</p> <p>事業クリエイターや府の関係機関等が有するネットワークを活用しながら、オープン前から企業や大学などと連携したプロジェクト組成を進めるため、幅広い企業や大学に呼びかけ勉強会を実施。さらに、令和5年度のオープンに向けて入居企業等を獲得するため、入居企業等の誘致活動や企業向けプレイベントを実施するとともに、地元・学生への理解を深めるためにプレイベントを実施した。</p> <p>(1) オープン前からのプロジェクト組成・ネットワークづくりのための勉強会の実施 本事業への参画意向の高い企業や大学を中心にA T Vにおける取組を具体的にイメージしてもらうためにテーマ別勉強会を3回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10月17日「A T Vを地域の宝となる施設にするには」京都会場</li> <li>・ 11月1日「アイデアを生み出すアートな場所づくり」神戸会場</li> <li>・ 11月22日「異能が集まる空間づくり」奈良会場</li> </ul> <p>(2) 入居企業等の誘致・プレイベントの開催 令和5年度のオープンに向けて、様々な企業や大学、地域住民へ本事業を広く周知することを目的として施設全体のイメージパース</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>や本事業の趣旨を記載したパネルを作成、イベントを4回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月24日「アートとテクノロジーで創造する新たな世界」をテーマにパネルディスカッションを実施（東京）</li> <li>・ 10月10日、11月6日 ものづくりとアートに触れるワークショップを実施（大山崎町）</li> <li>・ 11月8日学生向けシンポジウムを京都芸術大学にて実施</li> </ul>
<p>今後、産業・教育分野において需要拡大が見込まれるVR・AR技術等について、企業活動の積極的な支援や「京都VR・AR拠点」の形成を行います。</p>	<p>◆京都クロスメディアパーク整備事業（京都AR・VR技術活用促進事業）</p> <p>AR・VR等を活用したクリエイター等によるトークセッションの開催を通じ、ゲーム・映画産業等の高付加価値化を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催時期：令和4年11月5日</li> <li>・ 参加者数：80人</li> </ul>
<p>シェアリングエコノミーについて、音楽等のサービスから自動車、衣服など、物の利用サービスへと広がりつつあるサブスクリプション(定額)ビジネス分野も見据え、地域資源を生かした京都独自のビジネス展開を「シェアリングエコノミー促進プロジェクト」として、取組を進めます。</p>	<p>◆共創型ものづくり等支援事業</p> <p>企業間連携グループの形成から連携ビジネスの実践まで一貫支援する助成事業を実施した。</p> <p>(1) 連携体制構築コース</p> <p>グループ形成に向けた連携ルール策定や事業計画策定のための市場調査、試作品開発等の取組に要する経費の一部を助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付件数：14件</li> <li>・ 交 付 額：49,604千円</li> </ul> <p>(2) 連携事業実践コース</p> <p>経営資源の共有化による企業間連携ビジネスの実践に向けた生産技術開発や販路開拓等の取組に要する経費の一部を助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付件数：14件</li> <li>・ 交 付 額：221,598千円</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>オール京都の「高度人材育成プログラム」を策定し、ものづくりをはじめ各産業における研究開発人材などの育成、新卒者から管理職、経営者までのシームレスな研修をオール京都体制で実施するとともに、中小企業大学校と連携し、高度人材を育成します。</p>	<p>◆起業するなら京都・プロジェクト推進事業 (交流・連携促進事業) オープンイノベーションカフェ (KO I N) を核に、様々な分野の方々が交流、連携するイベントを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催回数：227 回 (オンライン開催を含む)</li> <li>・参加者数：延べ 5,018 人 (オンライン開催を含む)</li> </ul> <p>◆次世代人材育成・産業創造事業 中小企業大学校と連携し、経営幹部や管理者を対象として、組織を活性化させるリーダーを目指す研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催回数：2回</li> <li>・参加者数：7名</li> </ul>
<p>「M a a S・α促進プロジェクト」を創設し、クラウドサービスの新たな展開について「M o b i l i t y (交通利用のスマート化)」だけでなく、「C o m m u n i c a t i o n (テレビ・Web会議)」や「F a c t o r y (工場)」などのあらゆる分野においても、こうしたサービスを活用し、新たなビジネスを創出します。</p>	<p>◆スマートけいはんな活動強化事業 中小企業等の最先端技術を活用しスマート社会を推進するため、新たな技術連携に向けた支援や自動運転等の実証環境を強化した。</p> <p>(1) 中小企業等を新たに加えた連携体制の構築</p> <p>ア データ利活用推進のための京都ビックデータ活用プラットフォームの機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ統合・連携基盤のサンプルデータ数：27件</li> </ul> <p>イ コーディネータによるスマート関連技術の実装化支援</p> <p>国内外の企業とのネットワークを活かし、京都府の各スマートシティ関連事業への新規企業の参画を支援するとともに、各企業の新規事業創出に向けた政策提案を行うなど伴走支援を行った。</p> <p>(2) 中小企業等の参画を促す新たな支援制度の創設</p> <p>中小企業等のプロジェクトへの参画に伴う技術実証に対して助成した。</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付件数：9件</li> <li>・ 交付額：7,402千円</li> </ul> <p>◆けいはんなサステナブルスマートシティ推進事業</p> <p>(1) 官民データ活用によるビジネス創出・社会課題解決の推進</p> <p>ア 官民データの活用を促進するデータ流通取引市場の構築</p> <p>官民の多様なビッグデータを収集し、その活用を促進するデータ取引市場として、ポータルサイト「KYOTO DATA MARKET PLACE」を構築した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ データ流通取引市場のページビュー数：1,496回</li> </ul> <p>イ データ取引市場内のデータを活用し、社会課題解決や地域の魅力向上に取り組む中小企業等の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付件数：3件</li> <li>・ 交付額：33,943千円</li> </ul> <p>(2) デジタル技術を駆使したスマートシティの実現</p> <p>ウェアラブルデバイス及びデジタルサイネージを整備し、スマートライフサービスを連動させることで、利用者の行動変容を促し、健康増進・消費促進等を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ウェアラブルデバイスの貸与数：1,500台</li> <li>・ デジタルサイネージの設置数：5台</li> </ul> <p>(3) データ連携基盤の構築</p> <p>スマートライフサービスの実装に必要な、健康データや移動データなどの複数分野のデータを連携させ、活用するための基盤を整備するとともに、セキュリティ対策を実施した。</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>「ビッグデータ活用・京都観光交流圏周遊プロジェクト（以下「観光プロジェクト」という。）」を創設し、「京都市＋府域＋近隣府県」で相互に人が行きかう観光交流により、観光客の府全域への分散・周遊を促し、地域社会と観光とが共生できる社会づくりを進めます。</p>	<p>◆「食の京都」推進事業</p> <p>(1) 生産地エリアでの地域の食材を活かした魅力向上 インフルエンサーを活用して、地元料理や食材、観光スポットを紹介する記事を制作しwebで配信した。</p> <p>ア モニターツアーの開催 ・お茶の京都及び竹の里・乙訓エリア 開催日：令和5年1月28日 ・海の京都・森の京都エリア 開催日：令和5年2月26日</p> <p>イ SNSでの情報発信投稿件数：47件</p> <p>ウ webサイトでの情報発信 ・京都府観光連盟運営webサイト「食らし旅」への投稿件数：51件</p> <p>(2) 「食の京都」の情報発信・誘客促進 「食の京都」をキーワードに地域のいちおし食材等を活用した地域の魅力向上・消費地での認知度向上で、府域での食の京都を推進した。</p> <p>ア ファクトブックの作成・配布 「もうひとつの京都」の自然の豊かさや地域に根付く文化の魅力を食のスポットとともに紹介するファクトブックを作成し、メディアへの配布を実施した。</p> <p>イ メディアツアーの開催 森の京都エリアにメディアを招待し、府域の「食」の魅力を実際に体験してもらうことで、理解促進及び認知度向上を図った。 ・開催日：令和4年11月16日～11月17日 ・参加者：10社 ・記事数：4社12本</p> <p>ウ メディアとの連携による情報発信</p> <p>(ア) 旅と食をテーマとした「もうひとつの京都」エリアの情報発信</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記事数：雑誌2社2本、 web1社1本</li> <li>(イ) 「食の京都」のファンづくりやwebサイト「食らし旅」の認知度向上のための情報発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・記事数：雑誌2社2本、 web2社6本</li> </ul> </li> <li>エ 京都府観光連盟webサイト「食らし旅」での情報発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・記事数：12本</li> </ul> </li> <li>オ 「食らし旅Instagramキャンペーン」の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>「もうひとつの京都」エリアの食の魅力発信を目的に、「食らし旅2022Instagramキャンペーン」を実施した。</li> <li>・応募数：169件</li> </ul> </li> </ul> <p>◆文化観光推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 文化観光連携ネットワークの運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>文化観光連携ネットワーク内で府内の文化施設等の情報交換を行うとともに、文化観光コンテンツの磨き上げや観光活用への環境整備のためのファムツアーを実施した。</li> <li>・開催日：令和4年4月14日、15日</li> <li>・参加者：3社</li> </ul> </li> <li>(2) 文化財等を活用した観光誘客等 <ul style="list-style-type: none"> <li>旅行会社やメディア等と構築したネットワークを活用し、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」ゆかりの地等に係る情報を発信した。</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 寺社等の文化資源を活用したデジタルスタンプラリーの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：令和4年5月13日～9月30日</li> <li>・参加者：580人</li> </ul> </li> <li>イ 「鎌倉殿の13人」ゆかりの地のポスター及びパンフレットの作成</li> <li>ウ 「鎌倉殿の13人」ゆかりの地のweb記事・動画の作成・掲載</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・web記事：2本</li> <li>・動画：1本</li> </ul> <p>エ JR西日本の観光キャンペーンと連携した「お茶の京都」エリアの観光スポットをPRするポスター・パンフレットの作成</p>
<p>「観光プロジェクト」を創設し、観光関連企業や行政、大学が参画する「京都ビッグデータ活用プラットフォーム」から提供されるデータの活用や、大学連携によるスキルアップセミナーの実施等により、新たな観光需要に対応できる高い経営マネジメント力を有する高度観光人材を育成します。</p>	<p>◆ビッグデータ活用推進事業</p> <p>大学・研究機関、企業、行政等が参画する官民連携のプラットフォームである「京都ビッグデータ活用プラットフォーム」において、データの利活用を促進し新たなサービスの創出や事業連携を通じ、地域課題の解決や産業活性化を図るため、課題を共有するコミュニティや実証・事業化に向けたワーキンググループ活動への支援及びセミナー等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会議開催回数：2回</li> <li>・参加者数：229人</li> <li>・セミナー開催回数：1回</li> <li>・参加者数：35人</li> <li>・コミュニティ支援数：6グループ</li> <li>・実証・事業化ワーキンググループ支援数：9グループ</li> </ul> <p>◆京都の未来をつくる「DX人材育成・産業創発」プロジェクト事業 (観光DX人材育成事業)</p> <p>観光産業の労働生産性や稼ぐ力の向上を図り、経営の好循環を生むため、経営者向け段階別セミナーや従業員向け実務スキル向上セミナーを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光おもてなし人材育成セミナー 参加者数：83人</li> <li>・観光経営セミナー part 1 観光経営編 参加企業(参加者)数：5社(7人)</li> <li>・観光経営セミナー part 2 DX実践編 参加企業(参加者)数：8社(9人)</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>大学や企業と連携した国際MICE施設などの基盤整備や既存施設の活用促進による、府域へのMICEの誘致を促進するとともに、こうした学会等大規模なものだけでなく、「ミニMICE誘致促進プロジェクト」として、会議や招聘旅行等小規模なものや、農家民宿の活用等地域資源を活用した多様なMICEを京都府域へ誘致します。</p>	<p>◆ミニMICE等誘致促進事業</p> <p>(1) ミニMICE誘致促進事業</p> <p>水際対策の緩和によるMICE開催需要の回復に伴い、台湾市場におけるミニMICE等の誘致活動の強化を図るため、既存のMICE誘致用冊子「MICE in kyoto」の繁体字版を制作した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子発行数：1,000部</li> </ul> <p>(2) 京都文化交流・コンベンション推進事業</p> <p>MICE誘致の充実強化を図るため、公益財団法人京都文化コンベンションビューローが実施する国際会議誘致活動や企業インセンティブツアー等の取組に対して助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際会議開催件数：76件</li> <li>・参加者数：40,962人（うち海外8,421人）</li> </ul>
<p>「観光プロジェクト」を創設し、観光関連事業者でのキャッシュレス・モバイル電子決済環境の導入を支援します。</p>	<p>◆観光事業者のキャッシュレス決済環境の整備支援を行う国の事業により対応</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>「観光プロジェクト」を創設し、観光関連ビッグデータや公的統計、民間調査等を総合的に調査・分析するとともに、明確なターゲティングとニーズ把握の下、DMO等と連携した国内外へのプロモーションを強化します。</p>	<p>◆インバウンド対策事業</p> <p>(1) 海外からの誘客促進事業</p> <p>ア アジアからの誘客促進</p> <p>新型コロナウイルス感染症収束後の海外からの誘客に向けて、海外における府情報発信拠点の設置、SNS等を活用した情報発信や市場別海外プロモーション等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外情報発信拠点：2箇所 (香港、台湾)</li> <li>・台湾の京都展と連携した観光プロモーション：令和4年10月</li> <li>・インフルエンサーを活用したファムトリップ等の実施：令和4年11月 (タイ・台湾) 令和5年1月(台湾)</li> <li>・台湾・香港の観光情報メディアへのweb記事掲載：令和5年2月 (7,519ページビュー) 令和5年3月 (142ページビュー)</li> <li>・タイの観光情報メディアのSNSによる情報発信：令和5年3月 (閲覧者458,578人)</li> <li>・多言語ホームページ・Facebook等SNSによる情報発信</li> </ul> <p>イ 広域連携による誘客促進</p> <p>他府県市や民間事業者と連携し、欧米等からの観光誘客を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欧米豪の観光情報メディアへのweb記事掲載：令和5年1月～3月 (15,588ページビュー)</li> <li>・海外向けホームページへの観光情報の追加掲載：3件</li> </ul> <p>ウ Wi-Fi整備・多言語対応環境整備支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交付件数：2件(Wi-Fi整備のみ)</li> <li>・交付額：314千円</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>(2) 欧米豪インバウンド誘客促進強化事業  観光消費額の高い欧米豪からの観光客をターゲットに、新型コロナウイルス感染症収束後の訪日誘客及び府域周遊に向けて、観光プロモーションを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人向け観光情報メディアへのweb 広告配信（表示回数 3,964,074 回）</li> <li>・観光プロモーション動画広告の制作・配信（再生回数 280,551 回）</li> <li>・羽田空港国際線のサイネージへのPR 映像掲載（令和5年3月1日～31日）</li> </ul> <p>(3) 海外からの教育旅行誘致促進事業  海外からの教育旅行誘致を推進するため、各種プロモーションを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の高等学校との学校交流  現地：1校（アイルランド1校）  web：20校  （台湾9校、韓国11校）</li> <li>・海外旅行会社・教育関連団体向けオンライン商談会（令和4年11月）  参加数教育機関：19校  （アメリカ26人、カナダ3人）  旅行会社：9社  （アメリカ8社、カナダ1社）</li> </ul> <p>◆ミニMICE等誘致促進事業  （京都文化交流・コンベンション推進事業）  MICE誘致の充実強化を図るため、公益財団法人京都文化コンベンションビューローが実施する国際会議誘致活動や企業インセンティブツアー等の取組に対して助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際会議開催件数：76件</li> <li>・参加者数：40,962人  （うち海外8,421人）</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>企業や大学等の研究機関と連携した「スマートアグリ・イノベーションセンター（仮称）」を設立し、地域の実情に応じてAIやIoTによるセンシングデータに基づく農業、漁業、養殖業及び家畜の生産管理や、森林の境界情報及び木材情報の見える化等の取組を本格化させるとともに、ロボットを活用した生産活動の自動化を進めます。</p>	<p>スマートアグリ・イノベーションセンター（仮称）の設立及びスマート農林水産業の推進に向けた取組を以下のとおり実施。</p> <p>◆スマート農林水産業加速事業</p> <p>(1) 情報提供・技術相談</p> <p>ア スマート農林水産業情報センター事業 スマート農林水産技術についてのワンストップ相談窓口を設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数：147件</li> </ul> <p>イ 先進技術発信事業 スマート技術の企業や専門家等による技術展示・相談会を開催し、技術導入に向けて生産者と企業とのマッチングを推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：令和4年12月16日 令和5年2月10日</li> <li>・場 所：南丹市日吉生涯学習センター 宇治茶会館</li> <li>・参加者：56名 150名</li> </ul> <p>(2) 導入支援</p> <p>ア スマート農林水産業実装チャレンジ事業 スマート技術（機械等）の導入に取り組む生産者を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福知山市：4件 (直進アシストトラクタほか)</li> <li>・綾 部 市：1件（防除用ドローン）</li> <li>・宇 治 市：1件（環境制御システムほか）</li> <li>・宮 津 市：1件（ラジコン草刈機）</li> <li>・亀 岡 市：1件（防除用ドローン）</li> <li>・八 幡 市：1件 (収量センサーコンバイン)</li> <li>・京丹後市：8件 (収量センサーコンバインほか)</li> <li>・精 華 町：1件（防除用ドローン）</li> <li>・京丹波町：1件（直進アシストトラクタ）</li> <li>・与謝野町：1件（直進アシスト田植機）</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>(3) 技術開発・実証</p> <p>ア 京都イノベーション創造事業</p> <p>農林水産業のスマート化を図る技術メニューの開発・実証を行うため、産学公連携によるコンソーシアムにおいて共同研究を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業：ICTを活用した機械摘みてん茶の製茶工程省力管理システムの開発</li> <li>・スマート畜産：画像解析を用いた体重推定による肥育牛管理システムの開発</li> <li>・その他2分野</li> </ul>
<p>「環境イノベーション創出プロジェクト」として、環境・経済・社会の好循環を生み出す取組を進めます。</p> <p>▷I o E ( I n t e r n e t o f E n e r g y ) を利用したエネルギー需給を最適化します。</p> <p>▷産学公連携プラットフォームを構築し、再生可能エネルギーでつくった水素の産業・家庭における利用を促進します。</p> <p>▷産学公連携による、気候変動に適応するための新たなビジネスを育成します。</p>	<p>◆次世代エネルギー活用社会推進事業</p> <p>府北部地域での営農型太陽光発電導入に向けた調査において、発電した電力の地域内利用を検討した。</p> <p>◆水素ステーション等普及拡大事業</p> <p>水素社会の実現に向け、京都舞鶴港周辺、長田野工業団地及び綾部工業団地において燃料電池フォークリフトの活用や水素の巡回供給の実証事業を実施した。</p> <p>◆気候変動適応推進事業</p> <p>令和3年7月に京都府・京都市・総合地球環境学研究所の3者で「京都気候変動適応センター」を設置し、農業関係者等にヒアリングを実施するとともに、農業や暑熱に関して関係機関からデータを収集し分析を実施した。</p> <p>また、分析結果等についてシンポジウムやホームページ等で発信した。</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>「Ma a S・α促進プロジェクト」を創設し、Ma a S (M o b i l i t y a s a S e r v i c e) など、新たなモビリティサービスの導入により、利用者ニーズに即したシームレスな移動を生み出すとともに、持続可能な地域交通の確立をめざします。</p>	<p>◆地域公共交通計画等策定支援事業  令和3年度に策定した「JR山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通計画」及び「JR関西本線（加茂以東）沿線地域公共交通計画」に基づき、関係市町村や交通事業者等で構成する各協議会において、持続可能な地域交通の確立に向けて、公共交通の在り方を考えるシンポジウムの開催や新たな交通モードの検討等を行った。</p>

## 「災害・犯罪等からの安心・安全」きょうとチャレンジの取組状況

### 【総括】

災害や犯罪等から府民の命と財産を守るため、A I等の活用によりハード・ソフト一体となった最先端の危機管理・安心安全体制を構築するため、河川改修やトンネルの整備及び機能拡充等の防災基盤づくりをはじめ、危機管理センターの整備や「逃げ遅れゼロ・プロジェクト」の実施、犯罪防御システムの活用による地域防犯力の向上や子供が安心して通行できる交通環境の整備等に取り組んだ。

### 【到達目標】

指標名称	単位	基準値 (2018年度)	目標数値 (2023年度)	参考年間 目 標 (2022年度)	実績数値 (達成率：%) (2022年度)
災害時声掛け隊の人数 (累計)	人	—	500	400	528 (132.0)
刑法犯認知件数	件	16,821 (2018年)	15,000 (2023年)	—	10,578 (2022年)
年間の交通事故死者数	人	52 (2018年)	40以下 (2025年)	—	45 (2022年)

### 【これまでの主な成果】

- 国・府・京都市が連携し進めてきた嵐山左岸溢水対策の完成（令和3年度）
- 弘法川及び法川における貯留施設新設等の総合的な治水対策の概成（令和2年度）
- 老朽化したため池の改修及び未利用ため池を廃止するとともに、迅速な非難に向けたハザードマップを作成
- 「いろは呑龍トンネル」について南幹線・呑龍ポンプ場の供用開始（令和4年3月）
- 危機管理の指令本部となる「危機管理センター」の整備に着手（令和4年度）
- 水害等避難行動タイムライン作成指針の策定し、タイムラインを作成する地域等を支援（令和3年度開始）
- 京都大学との共同研究により、最先端技術を活用した「水位・氾濫予測システム」の開発に着手（令和3年度）※令和5年6月から市町村等と精度等の検証を開始
- 犯罪防御システムとGIS交通事故分析システムを統合し、防犯・交通安全の一元的対策を推進（令和3年度開始）
- 「犯罪・交通事故情報マップ」のオンデマンド配信による防犯情報、交通安全情報の提供（令和3年度開始）
- 関係機関との合同点検による未就学児の移動経路における安全対策の推進

**【令和4年度実績】**

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>桂川改修について、嵐山地区等、下流の国管理区間においては、昭和28年台風13号洪水に対応した整備を促進するとともに、上流の亀岡地区等、府管理区間においても、霞堤の嵩上げ着手等、河川整備計画に掲げた改修を推進します。</p>	<p>◆国直轄河川等事業            (河川事業(直轄河川改修))            国直轄河川の改修等のために要した費用を負担し、治水安全度の向上を図った。            【河川名】桂川</p> <p>◆安心・安全基盤整備事業            (広域河川改修事業)            河川改修事業の実施において、水系一貫した広域的な整備を図った。            【河川名】桂川、法貴谷川 等</p> <p>◆地域密着型社会資本整備事業            (河川企画調査事業)            治水計画の検討等を行った。            【河川名】桂川            (地域振興河川事業)            護岸工等の河川改修や地域環境等と調和した良好な水辺空間の整備を行い、治水安全度の向上と河川環境の保全を図った。            【河川名】雑水川            (河川災害防除事業)            河床の切下げや堆積土砂の取除き等を行い、いつ流、浸水等の災害の未然防止を図った。            【河川名】雑水川</p> <p>◆緊急浚渫推進事業            堆積状況や人家への危険度に応じて、対策の優先度の高い箇所において河川の浚渫を実施した。            【河川名】桂川、犬飼川 等</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>由良川改修について、国管理区間の河道掘削、堤防整備、宅地嵩上げ等、緊急治水対策を促進するとともに、府においても支川の河川改修、内水対策を国と連携し推進します。</p>	<p>◆国直轄河川等事業  (河川事業(直轄河川改修))  国直轄河川の改修等のために要した費用を負担し、治水安全度の向上を図った。  【河川名】由良川</p> <p>◆安心・安全基盤整備事業  (広域河川改修事業)  河川改修事業の実施において、水系一貫した広域的な整備を図った。  【河川名】宮川、牧川 等  (都市基盤河川改修事業)  福知山市が実施する市街地整備等に併せた河川改修事業に対して補助を行った。  【河川名】蓼原川  (総合流域防災事業)  流域一体で河川改修や情報基盤の整備等を行い、水害から府民の生命財産を守るための総合的な防災対策の推進を図った。  【河川名】伊佐津川、弘法川 等  (特定洪水対策等推進事業)  頻発化・激甚化する水害に対する治水安全度を向上させるため、河川の整備促進を図った。  【河川名】高野川、大谷川 等</p> <p>◆防災基盤整備事業  (地域防災対策事業)  度々浸水被害が発生している河川のネック箇所について、局所的に緊急河川改修を行った。  【河川名】弘法川</p> <p>◆地域密着型社会資本整備事業  (地域振興河川事業)  護岸工等の河川改修や地域環境等と調和した良好な水辺空間の整備を行い、治水安全度の向上と河川環境の保全を図った。  【河川名】弘法川、蓼原川 等</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>(河川企画調査事業) 治水計画の検討等を行った。 【河川名】雲原川 等</p> <p>◆緊急自然災害防止対策事業 小規模の河川改修を計画的に実施することにより、災害の発生予防及び拡大防止を図った。 【河川名】榎原川、大砂利川</p> <p>◆緊急浚渫推進事業 堆積状況や人家への危険度に応じて、対策の優先度の高い箇所において河川の浚渫を実施した。 【河川名】土師川、伊佐津川 等</p>
<p>京都府が管理する大野ダムについて、洪水調節機能を高めるため、事前放流目標水位の暫定的な引下げ等、効果的な管理を行います。</p> <p>また、日吉ダム等、国及び水資源機構が管理するダムについても、洪水調節機能の充実等に向けた取組を促進します。</p>	<p>◆大野ダム及び畑川ダムにおいて、令和4年9月の台風第14号に備え、事前放流を実施した。</p> <p>また、より確実な事前放流実施のため、実績を踏まえた運用の検討を実施した。</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>老朽化したため池の適切な維持管理を行うとともに、防災重点ため池について、浸水想定区域図の公表を進め、ため池ハザードマップの作成を進めます。</p>	<p>◆団体営ため池等整備事業  ため池等の農業用施設の改修及び農村防災施設の整備等を支援することで、農業用水の安定供給を図り、災害を未然に防止した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ため池等整備事業  2 地区 ため池改修ほか</li> <li>・調査設計事業  12 地区 実施設計策定ほか</li> <li>・農業水路等長寿命化・防災減災事業  18 地区 ハザードマップ作成(54 箇所)ほか  計 32 地区</li> </ul> <p>◆府営ため池等整備事業  老朽化した農業用ため池等について、改修を実施することで、農業用水の安定供給を図り、災害を未然に防止した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹前揚水機場 2 期  (京都市・宇治市・久御山町) 揚水機改修</li> <li>・大内山田奥池 (福知山市) ため池改修</li> <li>・小代呂池 (綾 部 市) ため池改修</li> <li>・昭和池 (綾 部 市) ため池改修</li> <li>・廻り池 (亀岡市・南丹市) ため池改修</li> <li>・川口 (八 幡 市) 揚水機場改修</li> <li>・田辺排水機場 (京田辺市) 排水機場改修</li> <li>・菅 (京丹後市) ため池改修</li> <li>・口人 (南 丹 市) ため池改修</li> <li>・大保池 (南 丹 市) ため池改修</li> <li>・奥池 (池ノ内) (南 丹 市) ため池改修</li> <li>・梅谷 (木津川市) ため池改修</li> <li>・梅谷新池 1 号 (木津川市) ため池廃止</li> </ul> <p>計 13 地区</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>◆小規模老朽ため池整備事業            国庫補助事業の対象にならない小規模老朽ため池の整備を支援することで、農業用水の安定供給を図り、災害を未然に防止した。            ・池ノ宮池（京都市） 転落防止柵設置</p> <p>◆ため池調査計画事            大規模地震時や豪雨時における防災重点農業用ため池の堤体に係る地質調査や構造計算等により、大規模地震や豪雨に対するため池の安全性を評価した。            ・京都9期（府内24池）            地震・豪雨耐性評価</p>
<p>桂川右岸流域下水道事業「いろは呑龍トンネル」について、令和2（2020）年度の暫定供用・令和5（2023）年度の完成に向け、南幹線及び呑龍ポンプ場の整備を進めるとともに、流入量・貯留量の予測精度を上げ、より正確な浸水予測情報を発信し、貯留機能と流下機能を最大限に発揮させる運用を確立します。</p>	<p>◆流域下水道事業            （いろは呑龍トンネルの整備）            いろは呑龍トンネルに関して、雨水を一時的に貯留する調整池や雨水を流入するための接続施設の整備を実施した。</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
<p>危機管理センターを設置し、オペレーションルームの常設、国等の応援機関の専用スペース・リエゾン室の確保、4 振興局へのサブセンターの設置等、京都市及び府内市町村対策本部とのネットワークを強化します。</p> <p>また、府・市町村の災害発生時対応業務について、図表等を用いて視覚的にも分かりやすく標準化するとともに、総合防災情報システムの整備、国の I S U T（災害時情報集約支援チーム）との連携体制の確立、備蓄管理システムの整備、防災情報の多言語発信、洪水氾濫状況等のリアルタイム配信など、最先端の危機管理体制を構築します。</p>	<p>◆危機管理センター整備事業 常設の危機管理センター設置に向け施設整備工事等の実施設計やシステムの詳細設計を実施した。</p> <p>◆総合防災情報システムについて、令和3年4月から運用を開始し、災害時には市町村や防災関係機関から災害情報を一元的に収集・共有することが可能となり、迅速且つ的確な災害対応を行うとともに、府民に向けてきょうと危機管理WEBから避難所の開設情報等の情報発信を行った。</p> <p>◆京都府河川防災情報システムについて、障害に強く、確実に防災情報を提供するシステムへ再構築を進めており、令和4年度に庁外クラウドへの移行が完了。令和5年度から回線の冗長化に着手する。</p>
<p>府内全ての自主防災組織における水害等避難行動タイムラインの策定と「避難時声掛け体制」を確保するとともに、災害危険情報の対象エリアを精緻化し、危険度の高いエリアに絞ってプッシュ配信することにより、情報の信頼性を向上させるなど、「逃げ遅れゼロ・プロジェクト」として取り組みます。</p>	<p>◆スマート防災推進事業 民間事業者等による防災情報アプリの開発や既存アプリの機能向上を促進するため、京都府総合防災情報システムを改修し、府が収集している災害情報をオープン化した。</p> <p>◆大規模水害等広域避難体制検討事業 由良川下流域に設定したモデル地域において、広域避難マニュアル原案を作成するとともに、関係市町村と地域間連携の仕組み構築に向けた検討を行った。</p> <p>・水害等避難行動タイムラインの策定 実績：341箇所</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難時声掛け人材の確保 災害時声掛け隊の人数（累計）：528人</li> </ul>
<p>降雨情報（X-Rain）とミクロな地形情報、実績水位をもとに早いタイミングで中小河川の洪水を予測するAI活用「氾濫早期予測システム」を開発します。</p>	<p>◆水位・氾濫予測システム導入事業 京都大学との共同研究により、最先端の技術を活用した「水位・氾濫予測システム」の開発を進め、令和5年6月1日から市町村、気象台向けの情報配信を開始するに至った。</p>
<p>犯罪の発生情報を集約、AI等を活用して情報の分析機能を強化するなど、犯罪防御システムの高度化を図り、先制的なパトロールや効果的な情報発信等により、更なる犯罪抑止対策を推進します。</p>	<p>◆犯罪防御システム活用事業</p> <p>(1) 選定したパトロールコースにおける府民との協働パトロール等の犯罪抑止活動を実施したほか、犯罪リスクの高いエリアにおける警戒活動を行うことにより、街頭犯罪等を検挙した。</p> <p>(2) 犯罪関連情報と交通事故情報を統合した犯罪・交通事故情報マップの提供により、情報発信機能を強化し、地域防犯力の向上を図った。</p>
<p>「子どもの交通安全「安心空間」確保プロジェクト」を創設し、 ▷通学路やお散歩コース等の園外活動における交通事故防止のため、路肩の拡幅やポールを設置するとともに、地域、保育所・認定こども園・幼稚園、学校、行政、警察等が連携して、子どもが安心して通行できる交通環境の整備を推進します。 ▷車両運転者への対策として、交通安全教室等あらゆる機会を活用するとともに、安全運転サポート車や急発進抑制装置装着の技術開発や普及を進めます。</p>	<p>◆未来へつなぐ交通安全推進事業 通学路等におけるこどもの歩行中の事故を防止するため、こども目線での通学路における安全点検活動を支援する動画・リーフレットを作成、配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通学路安全点検活動支援動画・リーフレットの作成、配布 発行部数：9,000部 配布先：府内小学校、小中学校及び義務教育学校 368校 関係機関・団体：119箇所</li> </ul> <p>◆交通安全施設整備事業 交通事故の抑止と交通の円滑化による交通渋滞や交通公害の減少を図るため、交通安全施設の計画的な整備を行い、安全な交通環境の実現を図る。</p>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通信号機の新設</li> <li>・半感应式信号機新設 1基</li> <li>・プログラム多段式信号機新設 4基</li> <li>・押ボタン式信号機新設 1基</li> </ul> <p>◆子供安全安心実感まちづくり事業 (車両速度抑制対策事業)</p> <p>可搬式速度違反自動監視装置による車両速度抑制対策として、可搬式速度違反自動監視装置6基を活用し、通学路・生活道路等での速度違反取締りを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路における運用回数：508回</li> <li>・       "                    検挙数：765件 (令和4年中)</li> <li>・子供の交通事故発生状況(小学生、歩行中)   死者数：0人(前年対比±0人)   負傷者数：37人(       "       -1人)</li> </ul> <p>◆子供安全安心実感まちづくり事業 (交通安全意識向上事業)</p> <p>交通事故の起きにくい社会づくりを進めるため、車両運転者への対策として、交通安全教室等あらゆる機会を活用し、府民の交通安全意識の向上に資する活動を推進した。</p> <p>交通安全府民運動において、広く普及啓発を行うとともに、府民が自身の運転技術を把握し、安全運転に対する意識を高めるため、ドライビングシミュレーターの活用を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライビングシミュレーターを使用した交通安全教室等の実施：12地域 約980人</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>◆防犯まちづくり推進事業</p> <p>高齢運転者が第一当事者となる交通事故の割合が高いことから、高齢運転者となった早い段階から安全運転の意識を高める機会を提供するため、自動車の運転が日常生活に欠かせない府北部・南部地域を中心に、デジタル技術（危険予測教育機器等）を用いた、加齢に伴う身体機能の変化が運転に及ぼす影響を体感できる参加・体験型の交通安全教室を委託事業として実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢の影響を体感できる参加・体験型交通安全教室の実施：4地域 62人</li> </ul> <p>◆京都エコノミック・ガーデニング支援強化事業</p> <p>プロセスの見直しによる生産性向上と高付加価値化を両立する取組を調査分析から体制構築、実践まで一貫支援する助成事業を実施した。</p> <p>(1) 事業創生コース</p> <p>データ分析や調査課題等によるプロセスの見直しに要する経費の一部を助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交付件数：20件</li> <li>・交付額：15,429千円</li> </ul> <p>(2) 事業化促進コース</p> <p>生産性向上・高付加価値化のための研究・投資に要する経費の一部を助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交付件数：19件</li> <li>・交付額：131,362千円</li> </ul> <p>(3) 本格的事業展開コース</p> <p>実用化に向けた応用研究・生産技術開発、生産・販売・サービス提供のための設備の導入に要する経費の一部を助成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交付件数：15件</li> <li>・交付額：295,678千円</li> </ul>

総合計画に掲げた具体方策	令和4年度実施状況
	<p>◆「産学公の森」推進事業</p> <p>産学公の多様な連携プロジェクトの組成から、製品等の試作・研究開発、実用化に向けた市場開拓、生産設備投資等を一貫して支援する助成事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交付件数：41 件</li> <li>・ 交付額：498,806 千円</li> </ul>
<p>G I Sを活用した交通事故の発生原因等の多角的な分析に基づき、原因別に重点を絞った街頭活動の展開や自転車通行帯等の道路交通環境の整備等、地域の交通実態に即した交通事故防止対策を進めます。</p>	<p>◆犯罪防御システム活用事業</p> <p>交通事故分析機能を活用し、交通規制・交通安全教育・交通取締り等を行い、交通死亡事故抑止対策を推進した。</p>